

【令和5年度第1回企画展】

後藤新平旧宅 ~18世紀中期から現代まで~

昨年11月から今年の3月末まで、倒壊の恐れがあった冠木門の修理や歴史を重ねて見えなくなった襖の表装修繕等を行いました。衣替えになったこの機会に、築250年は経たであろう後藤新平旧宅の歴史の変遷を紹介します。

【後藤家家系図(後藤惣助別家)】

親類可判の間柄(藩に提出する書類には必ずお互いの判をとらねばならない関係)であった内田家(現在:武家住宅資料館)子孫、内田紹男氏著『水沢歴史研究後藤新平家の歴史』からまとめたものが下図である。

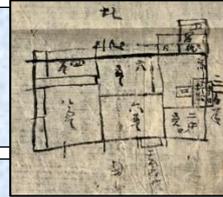
なお、「後藤氏系譜」の中で、「實喜」が後藤新平家の「初代」となった経緯が次のように記載されている。

「實喜 仕于宗直君 宗景君 別賜於食禄、是故實房所賜之屋敷三分與其一、為別家」

實敬 九右衛門	女 坂本七之允妻 1658~1737(80) 第2代	1704~1795(92) 第3代	1727~1806(80) 第4代	實小幡勘右衛門三男 1759~1820(62) 第5代	1794~1868(75) 第6代	1821~1883(63) 第7代	権名弁七郎	
女 八幡下殿守平次次女	實忠 小左衛門・五右衛門	實適 五右衛門・小左衛門	實正 七右衛門 五右衛門・新平	實治 甚右衛門	實仁 小左衛門	實宗 辰辰助・七右衛門	初瀬(初務)	悦三郎
十兵衛 浅右衛門團祖 1624~1688(65) 初代	室 守屋勘右衛門女	室(縁目氏) 後室(空神氏)	室 永井氏	室 三宮玄伸女	室 宮殿正右衛門女	利恵(利鳳子) 坂野長安女 1824~1923(99)	1857~1929(71) 第8代	一蔵
實喜 十右衛門團祖	内田勘之允寛久	實胤 内田軍之丞	女 花田善兵衛妻	女 花田永左衛門	女 武下保助妻	利和(清) 前沢山本三伴妻	新平 實喜・實賢	春子
室 坂本氏	色川三右衛門		内田勘之丞 松之助				カツ(和子) 安場保和次女	鶴見祐輔
1624 1655 寛永1 明暦1	1673 1688 延宝1 元禄1	1716 1744 享保1 延享1	女 小丸八十郎妻 1764 1781 明和1 天明1	1789 寛政1	1818 1848 文政1 嘉永1	1860 1865 万延1 慶応1	阿川彦七	愛子
1644 1658 慶安1 万治1	1681 1704 天和1 宝永1	1736 1748 元文1 寛延1	1801 享和1	1830 1854 天保1 安政1	1861 1868 文久1 明治1	1864 1865 文久1 明治1	みどり	佐野彪太
1652 1661 承応1 寛文1	1684 1711 貞享1 正徳1	1741 1751 寛保1 宝暦1	1772 安永1	1804 文化1	1844 弘化1	1864 元治1	1912 1926 大正1 昭和1	しづ

【第4代實正が建築】宝暦年間(1751年~1764年)

「後藤新平伯伝記編纂会」によると、右の古文書が、宝暦年間の資料であると推測している。とすれば、現在の建物の建築は、18世紀中期となる。



【第6代實仁が大改修】文政5年~安政4年(1822年~1857年)



初代後藤彦七
文政五年春 屏室建
同十年秋 閑所相建
同十三年秋 板倉相建
同十五年十二月 改元二付面
同十六年二月 成
同二十年 門相建
同二十二年 表小室建
同二十三年 表小室建
同二十五年 居屋根管漸く
手入い多し候事
同二十八年 奥室移す候事
但中家并閑所共二具志移す候事
安政四丁巳年十月八日 門立吉と申
二付門相建

初代後藤彦七は、新平の祖父實仁である。この實仁が塀笠や閑所、板倉、門、表小屋、そして祖父實正の建てた居家の屋根の葺き替えを漸く終え、一連の建設終了に安堵している様子が窺える。

【第9代一蔵が大改修】昭和10年~11年(1935年~1936年)

新平の長男一蔵が、昭和10年の第一期で、門構え・外廓・庭園・溝渠等外部の方面を、昭和11年の第二期で、本屋・板倉等の保存・修理等、専ら内部の方面の修理を行った。



令和五年度 第一回企画展
後藤新平旧宅
十八世紀中期から現代まで
【併催】シリーズ後藤新平人脈考⑩
高野 長英

【期間】令和5年4月21日(金)~6月18日(日)
奥州市立後藤新平記念館

【敷地半減】昭和42年5月(1967年)

昭和41年9月、水沢小学校が現在の堀ノ内に移転。その後、昭和42年5月、水沢地区合同庁舎(現在の岩手県奥州地区合同庁舎)が竣工。この時、後藤家の北側の畑等の敷地が合同庁舎の敷地となった。(図面は編纂会収集時のもので、横の線引きは現代のものか。)



【舊宅付近略図】